H23年11月
第11号

情報とお知らせ

温もりを届けたい、手からこころへ・・・・・

# たまちゃん通信

日本のお手玉の会本部
〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町10番1号
TEL0897-32-0302 FAX0897-32-0311

## お手玉230個東日本大震災被災地の子どもたちへ届ける。
## 宮崎日日新聞が取り上げる。

宮崎お手玉の会　会員のみなさんへ
応援してくださる皆さんへ

### お手玉通信 6月号

宮崎お手玉の会長　弘田和子

梅雨になりました。梅雨といえば「あじさい」の季節、あじさいの雨に濡れた美しさには感動しますね。さて、雨が降らずダムの渇水が問題になっていたのが嘘のような台風２号の大雨に、川の増水が心配でした。皆様お変わりありませんか。

私はあおき地域事務所で防災訓練や海岸の保全、コアジサシの営巣誘導など自然いっぱいの仕事でたくさんの方々と出会い、語り、楽しい日々を過ごしています。

さて４月２９日（祝）市民プラザ３階で石巻市と福井県会津坂下町に送るお手玉の準備をしました。さっちゃんと河原さんが作ってくれたお手玉を２個セットにして小さな袋に入れ、一つひとつにお手紙を書き、遊び方も書いた資料を入れました。５月９日に送付、すぐにお礼の電話をいただき、大切に配りますと言ってくださいました。日用品や食物が送られてきているそうですが、お手玉の遊び方がはいっていたのがうれしいと言われました。小さな小さなことですが、私たちに出来ることで、少しでもお役に立つならうれしいことですね。５月１日に再度会員が集まって宮崎日々新聞の取材をうけ５月２２日の宮日新聞に掲載していただきました。まだまだお送りしますよ！

宮崎日日新聞　2011年（平成23年）5月22日　日曜日

**お手玉230個届ける**　市内の婦人ら

お手玉文化の普及や指導者養成に取り組んでいる「宮崎お手玉の会」（宮崎市・弘田和子会長）はこのほど、東日本大震災被災地の子どもたちへ手作りのお手玉計230個を送った。

報道で被災地の避難所生活に心を痛めた会員が「少しでも子どもの気晴らしになれば」と寄贈を決めた。会員30人が数珠玉や王冠が入ったお手玉を作り、宮城県の小学校と福島県の小中学校に送った。

会員の宮崎市小松台北町、佐藤幸子さん(78)は「お手玉なら子どもから高齢者まで一緒になって遊べる。喜んでもらえるとうれしい」と話した。

宮崎お手玉の会が発行しています、手作りのお手玉通信です。少しでも、宮崎のお手玉の会員さんや支援してくださる方の交流を大切に、日頃の活動状況をお知らせすることを、目的に弘田和子会長さんが自作で発行しています。上記の「お手玉通信」は日本のお手玉の会本部に送ってくださった印刷物を、手を加えないそのままご紹介したものです。全国のお手玉の会員の皆さんに、ぜひご覧になってください。本部のたまちゃん通信に、掲載しご紹介することがたいへん遅くなりました。

温かい励ましの、お手紙ありがとうございます。

この度の東日本大震災では私共にも大へんな衝撃を受けました。被災の日から今日まで すでに五ケ月を経ておりますが、被災された皆様方も復興へと立ち上っておられる中 また余震も続いています。そのような中 私共 宮崎支部 お手玉の会も五月始め「被災地の子供達へ」としてお手玉230個を福島県の小・中学校へ届けさせていただきました。そしてこの度 たまちゃん通信により、まだ〱被災地にお手玉を作って届けようと本部からの呼びかけに応えて、宮崎支部も協力致す事になりました。本年末まで受け付けておられるとの事ですので 先ずは本部宛 今回の送付をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

八月十八日

宮崎県支部お手玉の会
会員 佐藤幸子
〃 和田喜久子
〃 河原リエ子

※会長 弘田和子さんが多忙のため私共 後期高齢者組で頑張っております。

日本のお手玉の会
本部 様

## おしなご（お手玉）ヨーヨー物語

長野県飯田市
信州おしなごの会
会長　篠田啓子

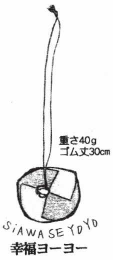
下記のタイトル「おしなご」情報紙は、篠田啓子さんが編集.挿絵などお一人でつくられています。A3サイズの見開きですが、ご紹介させていただきます。

●おしなごホームページ　http://www.homepage.mac.com/oshinago1

### おしなご（お手玉）ヨーヨー物語
—啓子の考案—

おしなごのヨーヨーとは「俵型」を縫い縮めるときに「輪」にしたひもを縫いつけ、その紐に「輪ゴム」を通し、本来のヨーヨーのように右手や左手の中指にゴムを通して上下左右に動かす遊びです。「俵型」のおしなごは日本人の主食を入れた俵をかたどったもので、江戸時代後半から作られるようになりました。（『お手玉』文溪堂1997・9初版11頁）

この「輪ゴム」を一つ付けてヨーヨーにしたきっかけは、《第1回野外伝承遊び国際大会（1999平11・10・31、11・1）》の代々木公園陸上競技場で13カ国が参加して開催された時、外国の遊びで「輪ゴム」をたくさん持って飛ばす遊びがありました。その翌日、私は幅教真（本名幅栄二）先生に話しました。「輪ゴム一つあれば遊べるよ」とおしなごに輪ゴムを付けて見せて下さいました。「なるほど」と思い、「俵型」に綿の細紐を5cmに切って輪にして1cmの縫い代で俵型のおしなごの縫目にしっかりと縫いつけてから回りを縫って縮めます。隙間のないように作ってみたら丁度、林檎（知恵）のようで『信州・ヨーヨーりんご』と命名してもと思っています。


重さ40g ゴム丈30cm
SiAWASEYOYO 幸福ヨーヨー

似顔画/巻田喜昭氏 太宰府2003・9・7

ヨーヨーりんご
輪ゴムを通す 重さ35g
平11.11.1
心に感動を覚えた

次に、座布団型（四合わせ型）のおしなごは日本のお手玉の会の認定型小豆40g入り、これには『幸福（しあわせ）ヨーヨー』と命名しました。

おしなご遊びは遊ぶだけでなく、日本人らしく「糞掃衣（ふんぞうえ）」（おけさのこと）の心得で小さな布に心をこめ芸術的に仕上げる、小さい頃から小さい物から芸術作品を作り上げていく心を養いたいと思うようになりました。

《第12回全国お手玉遊び福岡大会（2003平15・9・6、7）》の折に、母の形見の手織りの縞で作ったヨーヨーの俵型を持って行きまして話題になりました。

藤井昭子様（福岡お手玉の会）からも「我々の仲間にはヨーヨーまで思いつく人は誰もいませんでした。販売…と言うことも…」（2003平15・10・31）とお便りを頂きました。

山岸淳子様（東御市の会長）から「努力に努力を重ね生み出した様々な事を、私どもに惜しげなくみんな教えて下さる姿勢に…」（2003平15・12・12）とお便りを下さいました。

山内幸子様（東京のお手玉の会・デイサービスの見守り看護士）からも私の一つ差し上げた縞のヨーヨーおしなごから「ヨーヨーを思いついたことはとても良いことですね。デイホームに通所するご利用者（約30名）で数名視力の低下の方に墜ちないお手玉と喜ばれているんです」とお電話をいただきました。さすがに山内様は見守り看護士様で、その後、ゴム紐の長さは30cm、重さ30gと研究を重ねられ「看護用具創意工夫」の部で発表（2004平16・11・18）されました。《第13回全国お手玉遊び神戸大会（2004平16・9・18、19）》の折にそのお話をして下さり、私も胸をわくわくしながら発表の日を飯田で祈っていました。

※幅教真（はば のりまさ）先生…厚生労働大臣免許 国家資格保持者 統天医会 幅鍼灸マッサージ手技 徒手矯正治療院会長 院長 日本抗加齢医学会指導士認定番号1140 日本東洋医学系物理療法学会 特別技能保持者資格

お手ポンヨーヨー
お手玉演舞に向けて
重さ80g 太ゴム2つ
平15.10.31

重さ 30g
ゴム丈 30cm
視力低下の方にヨーヨー
平16.9.18

## 信州日報新聞に掲載されました。

孝良　2011年（平成23年）8月7日（日曜日）　（6）

### 伝統芸能に触れる機会に
おしなごの会 製作と競技会を開催

信州おしなごの会（篠田圭依子会長）のおしなご作りと競技会は5日、飯田市役所りんご庁舎2階サロンで開いた。午前中におしなごの製作を行い、午後は競技会を行った。

飯伊地方ではお手玉のことを「おしなご」と呼ぶ。同会会長の篠田さんは飯田市に在住し、「日本お手玉の会」の理事も務めながら、30年余にわたり、おしなごの普及に尽力してきた。その一環で定期的に製作の場や競技会を開いている。この日は約30人の参加者が集い、小さな子どもの姿もあった。

作ったおしなごは「俵型」と呼ばれる種類のもので、「信州りんご」の形をしたものを中心に製作。同会のスタッフがサポートをした。

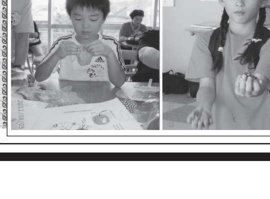
おしなごの製作手順は、まず20×11cmの木綿や絹の布切れを筒状に縫い、中に詰め物をする。この中身はさまざまな種類があり、ここでは数珠、中国製のあずき、鈴、椿や茶の実、ビールの王冠などを用意。それぞれが好きな材料を詰めてオリジナルの作品にした。その後上下を縫いあわせて完成させた。

市内から訪れた小学1年生の男の子は、普段から家族の裁縫を手伝っているといい、初めてのおしなご作りにも「思ったより簡単」と器用に針と糸を動かしていた。おしなごは、慣れてくれば15～20分で一個が出来るようになるという。

1は「ことのはじまり」、3は「さん満ちる、行き渡る」、5は「五体満足」などとするめでたい数字にあやかって、一人ひとりがこれらの個数を目安に製作した。

午後は、おしなごを持参した参加者なども含め、年代や種類に応じて競技会を開催した。おしなごが宙に舞う際に聞こえる涼しげな音色や軽やかな響きが場内に広がっていた。

アドバイスを聞きながら、おしなご製作に取り組む


左側・小学1年生の男の子

市内から訪れた小学生の男の子が思ったより簡単に、お手玉を作ることができたと、器用に針と糸を動かしていた。「おしなご」の会員さんは驚いていたそうです。